

富山県高P連会報

第 126 号
2022.2

編集発行

富山県高等学校PTA連合会
発行人 会長 堀井 鉄也
富山市千歳町1-5-1
富山県教育記念館41号
TEL 076(432)2810
FAX 076(432)1501

令和3年度富山県高P連大会・指導者研修会を開催

令和3年度富山県高等学校PTA大会・指導者研修会を10月25日、ホテルグランテラス富山で開催しました。今年度はコロナ禍のため、各校2名の参加に制限して行いました。

開会式では小林大助副会長の開会のことばの後、堀井鉄也会長から「現在の高校生が置かれている環境は今までになく複雑であり、変化が大きくなっている。例えば、大学入試制度改革、学習指導要領の改訂、GIGAスクール構想、18歳成人の民法改正、コロナ禍による就職の多様化、求人率の変化など、多岐にわたる。本大会は我々

保護者が子供たちの環境を少しでも整えていく重要性を考える機会にしたい。」と挨拶がありました。

続いて来賓を代表して、荻布佳子教育長からは、今年8月に優良PT



A文部科学大臣表彰を受けた小矢部園芸高校PTAへの祝意ののち、「一昨年度前からのコロナ禍のために、学校行事は中止や延期を含め様々な変更を余儀なくされ、感染拡大を踏まえて夏休みの延長措置をとるなど、皆様には大変ご苦勞をおかけしました。貴連合会の皆様には「イレブンセブン運動」をはじめ、様々なPTA活動に積極的に取り組んでいただいている。また、各学校では「さわやか運動」や「PTA進路研修会」、「親子交流会」、「PTA通信」の編集などで、多くの保護者の皆様にご参加をいただき、子供たちの規範意識やマナーなどの向上、職業観の形成、PTA活動の活性化にご貢献をいただいている。

子供たちの健やかな成長には、学校、家庭、地域が連携して取り組むことが重要であり、皆様のご協力に改めて感謝申しあげます。本大会が有意義な研修となることを期待し、併せて皆様には今後とも本県教育へのご支援をお願いしたい。」との祝辞

をいただきました。

開会式に引き続き、4校のPTAから研究発表が行われました。

一 進路指導とPTA

魚津高校PTA

会長 松倉 良知

二 富山東高校PTA活動

富山東高校PTA

会長 勝原 幹裕

三 家庭教育とPTA

子どもの成長と親の目

高岡商業高校PTA

会長 山口 洋祐

四 本校のPTA活動と私の思い

志貴野高校PTA

会長 般若 真由美

全体討議では各発表に対して活発に質疑応答が行われ、充実した討議となりました。

その後、県教育委員会生涯学習・文化財室家庭成人教育班の



麦谷理香班長と高岡高校の串田至人校長から講評をいただきました。

麦谷班長は、「コロナ禍で活動が制約される中、Webを活用するなどして、できることからPTA活動の活性化を図ろうとしている実践例で、参考になった。魚津高校は進路選択の課題に親としても向き合い、進路実現を側面から支援しておられるすばらしい実践であった。富山東

高校では各専門委員会が研究テーマを決め、アンケート結果の分析や研修を行うなど、学校と家庭が連携して、子どもの成長を支えていることがすばらしいと感じた。高岡商業の発表では、PTAは子どもたちの自己実現のプロセスを支える応援団であるということをお話していただき、考えさせられた。志貴野高校は、多様な生徒の学校生活を支えるために工夫を凝らした活動を実践しておられ、ともに成長していこうとする思いが感じられた。本日の発表で得たことを各学校に持ち帰り今後の活動に活かしてほしい。」と助言されました。

串田校長は、「4校ともに示唆に富んだ発表であった。PTA活動は、生徒、保護者、教員の「つながり」をどうやって持つかという観点が大切だと思っている。先日、PTA役員会を行った際、学校と保護者の距離が遠く感じるといふご意見をいただいた。コロナ禍で学校に足を運ぶ機会がなくなり、PTAがどう協力すればいいのか分からないという話であった。コロナ禍という特殊な状況下で、今までは違った活動を考えることも必要である。これからのPTA活動は時代の変化に対応しながら、学校教育と家庭教育が信頼し、同じ目標を持って子どもたちの成長を見守り、うながしていく姿勢が必要である。」とまとめられました。

最後に記念講演があり、株式会社牧田組代表取締役社長の牧田和樹氏が「PTAって必要ですか?」と題して講演されました。

研究発表概要

「進路指導とPTA」

～進路指導に関する取り組み～

魚津高校PTA

会長 松倉 良知

魚津高校PTAでは、教職員との連携のもと、厚生委員会、広報委員会、研修委員会の3つの委員会を設置して活動を行っています。

厚生委員会では、「虹の会」の企画運営、「高校生さわやか運動」への参加協力、「学校保健委員会」への参加など、生徒・保護者の福利厚生に関わる活動を行っています。虹の会とは、生徒とPTAの懇話会のことです。これまで制服や部活、魚高祭、大震災、進路などについて保護者・教員・生徒が10人程度の班を作り、ブレインストーミングや付箋を活用した意見・アイデア集約の手法を使って生徒・保護者・教師がそれぞれの立場や知識・経験から自由に意見交換する場を共有します。生徒と保護者の貴重な交流の場ともなっています。

広報委員会では、編集会議をWEBで行うなど、コロナ禍の中でも工夫しPTA広報誌「魚高通信」を年2回発行し、学校・PTA全体の情報交換に活躍しています。

研修委員会は、子ども達の進路指導に一番関係の深い委員会であり、PTA研修会において講演会、学年懇談会や大学見学会の企画・運営を担当しています。

PTAは今後も機会を捉えて、変わりゆく大学入試制度、求められる学力や人間としての資質を学び、子供のメンタルヘルスにも配慮しながらコミュニケーションを深め、又は見守りながら、先生方と一致協力して、子ども達の健全な成長を支援していきたいと思っています。

「富山東高校PTA活動報告」

富山東高校PTA

会長 勝原 幹裕

富山東高校は本年度で創立60年を迎える県立普通科高校です。また平成9年度より普通科の中に自然科学コースが導入され、一層充実した教育環境となりました。そしてわが校の悲願であった第一体育館の新築工事が現在進められております。

PTA活動は、開校の年からスタートしており、活動の中には卒業生の講演なども行われております。現在同窓生は17000人を超え、今後も優秀な卒業生の講演が期待されております。委員会としては四つの委員会があります。スマホについてのテーマが近年のお題目である生徒生活指導委員会、睡眠などについて協議している学校保健委員会、広報誌を作成編集する東麓編集委員会、受験環境の変化などについて話し合う進路指導委員会があります。

また、大学に親も訪れる企画では、卒業生から大学生活についてのいろいろな話も聞くことができ大変好評です。卒業生のご両親に講師として、受験体験についてのお話を聞く講習会も開催しています。コロナで思ったような活動はできておりませんが、先生方と一致団結して尚活発な活動を続けていきたいと思っております。

「家庭教育とPTA」

～子供の成長と親の目～

高岡商業高校PTA

会長 山口 洋祐

本校は、本年度創立124年目を迎える伝統校で、「商業教育」「部活動」「多彩な活動」の3つを教育の柱として活動を行っている。

今回は、高校生活を有意義なものにするために、家庭教育という視点からいったいどのようなことができるのかを考察した。特に県内トップレベルの部活動が多く、教育活動の柱として部活動を掲げているため、子どもたちの活動をどのようにサポートしていくことができるかと考えた時に「食事」がキーワードとして挙がった。このような趣旨のもと、令和2年度にアンケートを実施した。この結果から、本校の教育活動を支えているのは、各家庭における親子の適切なコミュニケーションと、食事を通してサポート体制だと分かった。今後も、家庭教育の在り方のひとつとして、親子のコミュニケーションと食事という側面を大切にしていくべきだと考えた。

家族で食卓を囲み、会話をしながら食事をとることで、コミュニケーションの機会が増え、親子の絆も深まり、悩みの発見や心のストレスを軽くする効果なども期待できる。また、親の愛情をお弁当という形で示してあげることできる。今後も家庭教育のひとつとして、食事を通して子供たちのサポートの在り方を考えていきたい。

『本校のPTA活動と私の思い』

志貴野高校PTA

会長 般若 真由美

本校には様々な事情を抱えて入学してきている生徒が多くおり、入学してからもしっかりとした高校生活を充実させることができない姿も見受けられます。しかし一方で、働きながら学んだり、部活動や検定の取得に励んだり、ボランティア活動に参加するなど、本校へ入学したからこそ、活躍できている生徒もたくさんいます。私は常々、本校がどんな生徒にとってもかけがえのない「学びと成長の拠点」であって欲しいと願っています。多様な生徒の学校生活を保護者としてどのように支えるか、そのためには学校と家庭がどのように連携すればよいのか、PTA活動の取り組みを振り返ってみました。

広報委員会では年三回PTA通信を発行し、「親と子で考える志貴野高校」のアンケート結果からみた保護者と教師の意見を紹介しました。カルチャー委員会では、年二回の研修会を企画し、保護者と生徒と教員が文化的活動を通して楽しく交流できる場としました。

生活指導委員会では、学校と地域の連携を目指し、あいつ運動への参加・情報モラルセミナーの開催・女子生徒のストラックス導入など生徒の生活に即した活動で生徒たちに寄り添ってきました。

コロナ禍のため、二年連続でPTA総会が中止となるなど、活動の縮小を余儀なくされたものの、これからも継続して活動し、生徒たちが健やかに伸びていくための環境づくりに力を注いでいきたいと考えています。

記念講演

演題

「PTAって必要ですか？」

講師

株式会社牧田組 代表取締役社長

(二社) 全国高等学校PTA連合会

顧問(前会長)

牧田 和樹 氏



今まで、

数々のPTA
役員を引き受
けてきまし
た。中でも、
富山中部高校
のPTA会長
は、2回やら
せていただ
き、そのご縁もあり、県高P連そし
て全国高P連の会長をやらせていた
だきました。今日は皆様と一緒にP
TAの価値や意義について考えてみ
たいと思います。

1 生きる力と人間社会

文部科学省は「確かな学力、豊かな人間性、健康と体力」この3つを備えることが「生きる力」になると提唱していますが、本当にそうでしょうか。先の3つの力も大切だと思いますが、人間というものは人と人が存在している社会の中で生きており、その人間社会の中で幸せに生きていけるようになることが、本当

の意味での「生きる力」だと思おうのです。加えて、人には心がある故に人間関係を、ひいては人間社会を複雑にしています。

人間関係は互いに関係し合う心の状態で決まります。よりよい心の状態で関係を築いていくと興味が好意となり、共感することを通して信頼、尊敬へと人間関係が深まります。もちろん、その逆に悪化もします。

人間社会は自身と他者で成り立っており、自身の存在価値は他者からの承認によって決まります。つまり、人のために役に立つことが、他者から認められ、人間社会でよりよく生きる力になる。そのような力が「生きる力」なのではないかと思つていきます。また、そのような力を育むことが教育の役割だと思つていきます。

2 人間社会における課題

人間社会には明確な正解がない課題が多くあります。そういう課題に直面したときに、関わった人すべてがある程度納得できる弁証法の結果を導き出すことが、正解のない課題を解決することだと思つています。

課題を解決するためには、最終的に「決断・判断・対処」しなければなりません。そのためには、「洞察」が必要で、「洞察」の根拠となるものが、「客観的洞察」と「主観的洞察」です。「客観的洞察」とは、学んだ知識などの「静的情報」と自身の環境などからくる「現実」をもとにした洞察です。そして「主観的洞察」とは、相手を必要とする双方向の「動

的情報」とこれまでの「経験」をもとにした洞察です。

この中でも「主観的洞察」を練り上げるための「動的情報」は、相手との双方向のやりとりで入ってくる情報であり、本などの一方向では得られない情報だといえます。また、「経験」については、目的や責任感を伴う行動により得たものなので、どれだけ内容の濃い経験を積み重ねることができたかで、「主観的洞察」の質が変わります。

つまり、「客観的洞察」は、一方的に入る情報や知識を広げることによって深まり、「主観的洞察」は、人とのやりとりや意義ある経験を重ねることによって深まります。そうやって「洞察」する力をつけて、正解のない課題に「決断・判断・対処」していかなければならないのです。

3 「金持ち」より「人持ち」

私には、とりわけ全国高P連会長の時代に知り合い、今でもよいお付き合いをさせていただき、動的情報源となる著名な方々がいます。どうやってこのような人脈を築けたかというお話しをします。

まずは、コミュニケーションの本質的な部分ですが、相手の話をよく聴き理解することです。当然、理解する知識は必須です。そして話をよく聴いた上で、相手が理解できるように話しをするということです。

つまり、相手に合わせてよく聴き、分かるように話す。そのためには、相手を思いやる心が大切ということ

です。「思いやり」がコミュニケーションのベースにないと人との関係構築はできません。

では「思いやり」はどのようにして発揮するかというと、自分の心には「for me」の部分と「for you」の部分があり、その境界が揺れ動くわけです。相対的に「for me」が大きくなると「わがまま」となり、「for you」が大きくなると「思いやり」の心も大きくなるわけです。そのようなことから、「for me」の部分は自分の意思で小さくできる。つまり「わがまま」な心を小さくしていくことで自然と「思いやり」を発揮できるようになります。そうやって「人脈」を作っていくのです。

4 PTAって必要ですか？

PTAはご存じの通り、PとTのAssociationです。何のための組織かというと、児童・生徒のためにあることは明確ですが、昨今PTA不要論が叫ばれています。本当に必要のない組織なのでしょうか。

子供たちを取り巻く環境は、保護者や教師にとっても様々な課題に直面することとなります。それこそ正解のない課題です。正解のない課題を解くために必要なことは、「人脈」を生かしてよりよい解決策を見つけていくことです。その「人脈」は、保護者や教師が同じ境遇を共有している、PTAという組織を通して広がっていくのではないのでしょうか。まさに、PTAの存在意義がここにあるのだと思えます。

教育長陳情

令和3年11月1日、堀井鉄也会長が、富山県農協会館で荻布佳子教育長に「令和4年度教育関係予算措置その他に関する陳情書」を手渡し、ICT教育の充実、空調設備の整備、カウンセラー等の配置などを中心に次の8項目に関して陳情しました。

- 1 県高等学校PTA指導者研修事業の振興について
- 2 時代の進展に即応した教育改革への支援について
- 3 生徒生活指導の充実について
- 4 時代の進展に即応した学校づくりの推進について
- 5 学校運営費や旅費等の確保等について
- 6 定時制・通信制教育の振興について
- 7 特別支援教育の振興と教育環境の整備充実について
- 8 高等教育機関の拡充について

荻布教育長からは、「教育の充実は重要であり、要望については、厳しい財政状況ではあるが関係各課で十分検討させていただき、予算編成の中に少しでも反映させるように努めたい。」との回答をいただきました。



知事要望

令和4年1月24日に堀井会長と副会長5名が県庁に新田知事を訪ね、「時代の進展に即応した学校づくりの推進」「特別支援教育の充実」「高校生生徒指導等の充実」「教員の資質向上」の4点を重点に県立学校の教育振興を要望しました。また、県立高校特別教室への空調設置、ICT教育への支援、キャリア教育の充実、教員の多忙化解消などについても要望しました。

新田知事は、「特別教室の空調については、必要性の高い教室から計画的に設置を進め、光熱費など必要経費についても確保していきたい。ICT教育については、GIGAスクールサポーターなどの外部人材の活用、先生方のスキルアップの支援とともにリアルとオンラインのハイブリッドで学びの質を高めていきたい。キャリア教育については今後も推進していきたい。要望の多いスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどそれぞれの活用について充実した支援になるよう努めていきたい。また教員



の多忙化解消については、部活動指導員やスクールサポーター・スタッフなど外部人材の力を借りながら進めていきたい。そのためにも地域の皆さんや保護者の皆さんの理解と力添えをお願いしたい。」との回答をいただきました。

成年年齢が18歳に引き下げられます

令和4年4月1日より、民法上の成年年齢が20歳から18歳に引き下げられます。それに伴い、親の同意がなくても自分の意思で契約ができるようになり、高校生でもローンを組んだり、クレジットカードを作ったりできるようになります。一方で、親の同意のない契約を取り消せる「未成年者取消権」がなくなります。

悪質業者は、この民法改正を逆手にとって社会経験の少ない若者を狙ってくるのではないかと危惧しています。例えば、恋愛感情や好意を利用して契約させる「デート商法」や友人を誘うと利益が得られるとあって契約させる「マルチ商法」、中途解約すると高額な違約金を請求する「継続的なサービス契約」などが挙げられます。

高校生がトラブルに遭わないためにも、親子でのコミュニケーションを大切にしながら、消費者トラブルに遭わないための知識を身につける必要があります。万が一、消費者トラブルに巻き込まれて相談したいときは、「消費者ホットライン」☎1188があります。この電話は相談無料で、近くの消費者生活相談窓口（市町村の相談窓口や県消費生活センター、国民生活センター）につながり、相談員が正しい解約の仕方などをアドバイスしてくれます。

令和4年度

主な事業予定

- 令和4年
- 4月26日 監査会、令和3年度第4回理事会
- 5月19日 第1回幹事会
- 6月2日 高P連定期総会
- (安全振興会定時社員総会)
- 第1回企画委員会兼理事会
- 6月7日 新川地区PTA指導者研修会
- 6月16日 高岡地区PTA指導者研修会
- 6月22日 砺波地区PTA指導者研修会
- 6月27日 富山地区PTA指導者研修会
- 6月28日 第1回教育向上委員会
- 7月9日 第50回富山県社会教育大会
- 7月26日 第2回企画委員会
- 8月25・26日
- 9月29日 全国高P連大会石川大会
- 第3回企画委員会
- 第2回理事会
- 10月11日 第2回幹事会
- 10月20日 県高P大会・指導者研修会
- 11月上中旬 教育関係予算の県教委陳情
- 11月22日 第2回教育向上委員会
- 12月13日 第4回企画委員会
- 令和5年
- 1月上中旬 知事要望(教育振興)
- 2月16日 第5回企画委員会
- 第3回理事会

編集後記

ここに、会報第126号を発行する運びとなりました。寄稿していただいたPTA会長各位に厚く御礼を申し上げます。今年度もコロナ禍により、多くの事業が中止となり、会員の皆様と交流できる場が少なくとも残念です。ただ、10月の県高P大会・指導者研修会は開催することができ、発表概要、記念講演要旨等を掲載いたしました。活動の参考にしていただければ幸いです。

(事務局長 神田 聡)